

# とらのもんだより Vol.2

2021.3 医療法人社団虎の門会発行

## 新型コロナウイルス感染症と関節リウマチ治療について

難病治療開発機構 代表理事  
霞が関アーバンクリニック 代表  
西岡久寿樹

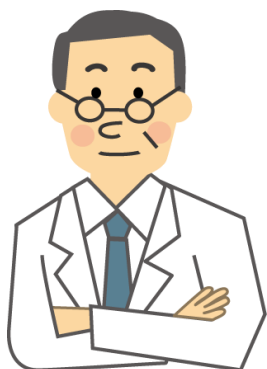
**新型コロナウイルス感染症**（以下、コロナ）は中国の武漢から発生したといわれています。コロナは瞬く間に多くの人々に感染し、その勢いは中国国内にとどまらず、世界をパンデミックに陥らせるまでに拡大し、全く終息の糸口が見えない人類とウイルスの戦いとなって世界中に蔓延しています。

コロナウイルス感染の最大の問題は、従来のウイルス感染症とは異なる**新たなウイルス感染症**で、治療はもちろんですが予防方法も決定的なものがないことです。コロナは今後も世界中でとどまるところを知らず、今後もさらに猛威をふるう可能性が非常に強いことから、人類にたたきつけられた最大規模のウイルス感染症といっても過言ではないでしょう。



日本では、季節性インフルエンザや花粉症とコロナとの鑑別が難しく、医療機関はその診断に苦労しています。

2020年11月18日の厚生労働省の発表で、東京都の感染者が1日で493名になったことが明らかになりました。その後、著しく感染者が増えていき、東京都の1日の感染者が2,000人を超えるまでになりました。また、東京都以外でも感染者数は増えていき、いわゆる第3波を迎えた状態となってしまいました。このような状態を改善するために2021年1月7日から3月7日までの期間、2回目の緊急事態宣言が東京をはじめとする1都2府8県（ただし、栃木県は2月7日に解除、大阪府、京都府、兵庫県、岐阜県、愛知県、福岡県は2月28日に解除）に発出、さらにこのうち1都3県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）は3月21日まで緊急事態宣言が延長されています。



厚生労働省が発表したコロナ患者の累計（2021年3月16日現在）は、感染者：450,451名、死者：8,702名、重症者：337名にのぼります。しかし、世界と比較すると感染者の人数はまだ少なく、日本国内の感染が水際の状態ではありますが抑えられていることがわかります。

日本では感染予防のため密を避けるようにソーシャルディスタンスやマスクの着用、手洗いうがいなどを奨励していますが、まだまだ都市圏では観光地や繁華街などの人出が多くみられるため、ウイルスが蔓延している状態だと考えられます。



現在、コロナ予防のための**ワクチンが世界各国で開発**され、欧米をはじめとする各国で接種が始まっています。



日本でも2021年2月14日にファイザー社のワクチンが正式に厚生労働省で承認され、同年2月18日に医療関係者から接種が始まりました。今後、全国で接種が始まることでしょう。

このワクチンがどの程度の予防効果を上げるのかは未知数なので何とも言えませんが、治療方法が確立されていない現時点では、一定の効果をあげるのではないかと考えられます。

ワクチンの副作用は、日本での接種が始まったばかりでまだ数例の報告しかありませんが、中には重篤なものも含まれているので、副作用が心配な方は、かかりつけの医師にご相談されてみてください。

副作用については、**厳重な追跡が大事**です。



一方、コロナが発症するメカニズムが関節リウマチ（以下、リウマチ）の関節内で起こっている**サイトカイン**という物質の異常反応、つまり**サイトカインストーム**とよく似た状態が起こっていることが最近の研究でわかってきました。

この**サイトカイン異常**の代表的な病気は**リウマチや膠原病**です。リウマチの治療にはサイトカイン異常を抑えるため、症状に応じて様々なサイトカインを標的とした**バイオ製剤**が用いられています。中でも、特にトシリズマブを代表とする**IL-6阻害剤**がコロナによって起こる血管炎や重症の呼吸器患者に有効で、一定の成果を上げているという研究が進んでおり、この研究についての論文や情報が日本をはじめ中国や欧米でたくさん発表されています。これを受けてイギリスではコロナ感染症の重篤な症状に対してIL-6阻害剤を用いた治療を開始しています。

近い将来、バイオ製剤がコロナ治療に用いられることになった場合、基礎研究や日頃から数多くのリウマチをはじめとするサイトカイン異常の治療に関わっているリウマチ専門医が、その経験を生かしてサイトカイン療法によるコロナの治療にあたる可能性が高くなると思われます。

実際に米国では、広く国際的に知られたリウマチ学者のアンソニー・スティーヴン・ファウチ教授が米国のコロナ対策の中心的な役割を精力的に担っています。

日本でも今後のコロナにおけるサイトカイン異常の病態究明と治療に、リウマチ専門医の豊富な経験と知識が役立つ日が近い将来やってくるのではないのでしょうか。

